

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人多治見市文化振興事業団	
施 設 名	多治見市文化会館（バロー文化ホール）	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額（総額）	3,403	（千円）
公 演 事 業	0	（千円）
人材養成事業	0	（千円）
普及啓発事業	3,403	（千円）

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	みんなで作る市民劇	2018年5月1日～2019年2月24日	・戯曲講座 講師：平塚直隆 ・演劇ワークショップ 講師：川村ミチル ・市民劇関連展示	目標値	35
		小ホール		実績値	911
2	たじみワンコイン寄席	2018年5月8日～2019年3月13日	出演：柳家花ん謝、春風亭正太郎、三遊亭歌太郎 演目：長短、ちりとてちん 他	目標値	900
		大ホール舞台上		実績値	1,415
3	スイーツタイムミュージック	2018年4月16日～12月9日	出演：松本蘭、山中惇史、古田友哉、古田汐里、デンハーグピアノ五重奏団、大竹貴子 他	目標値	400
		大ホール舞台上		実績値	465
4	まるごと一日音楽の日 in たじみ	2018年6月24日	・0才からのうたごえコンサート ・ホワイエコンサート ・思い出の昭和歌謡を歌おう 他 全6事業	目標値	500
		全館		実績値	1,542
5	子どものためのオーケストラテーマパーク	2018年6月30日～7月28日	・オーケストラと歌おう 講師：齊藤順子 ・ファイナルコンサート 出演：愛知室内オーケストラ	目標値	500
		全館		実績値	402
6	舞台芸術アウトリーチ	2018年10月24日～2019年1月16日	出演：茂山狂言会、QuintetH、井草聖二、中井亮一、Black Bottom Brass Band	目標値	1,000
		多治見市立小学校		実績値	1,076
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	3,335
				実績値	5,811

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

現在、多治見市では超高齢化・人口減少社会を見据え、多すぎる公共施設の在り方について見直しをしています。

その中で、平成29年6月に多治見市民を対象に「多治見市の公共施設に関する市民アンケート」がおこなわれました。その結果、多治見市文化会館は「過去に利用経験がある施設」であるとともに「日常的に利用される施設」であり、「今後も優先的に維持するべきと考える施設」だという、施設の存続を強く希望していることがわかりました。（資料1）

また、多治見市の産業振興計画では、「地域の魅力を地元住民自らが引き出すことによる、多治見の魅力の再発見と愛着心の向上」を最終的な形として目指しています。（資料2）

このことから、多治見市文化会館は、今まで以上に多くの人を訪れるとともに、多治見に親しみを持ってもらえる施設であるために

1. 「鑑賞のバリアフリー」完全実施
2. 「わが町」を愛する市民を増やす
3. 「観光都市・多治見」を支える舞台芸術の実施

を目標に事業を組み立てました。

今回助成対象となった事業はすべて単なる鑑賞事業ではなく、

- ・利用に不便を感じている人への事業
- ・多治見をより愛せる事業
- ・多治見のシティセールスとなり、この事業のために多治見へ訪れる事業

という、社会的意義を持った事業を企画しました。

実施にあたっては予算に無駄のないよう、収入および支出を精査して進めました。その結果、事業は当初の予定どおり進められ、予算の範囲内で終了することができました。（資料3）

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

今回助成対象となった事業は、好奇心を満たすものだけではなく、その上で「鑑賞に対する不便を取り除く」ことや「人と人がつながること」、そして「多治見を内外にアピールする」ことを目指して実施しました。

このような社会課題とも捉えられる事項については、今まで多くのアンケートに「収益だけを追求するのではなく、多治見ならではの事業をおこなってほしい」と書かれているほか、ワークショップ参加者からは「今後も引き続き開催していただきたい」という意見が全体を支配していました。（資料4）

「舞台芸術アウトリーチ」では、6年生の国語科で狂言を習得することに合わせ、茂山千五郎家から茂山逸平氏を招へいして学校で狂言公演をおこないました。先生からは「こんな有名な人が来るなんて！」と興奮気味で迎えられました。公演終了後は「やるまいぞやるまいぞ」とはやし立てる子どもたちが続出、先生方も「学校単独ではとても実現できないことをしていただき、子どもの学習理解の向上につながった」とたいそう喜んでいました。（資料5）

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

1. 「鑑賞のバリアフリー」完全実施

気軽に楽しめることのできる無料コンサート「ふらっとコンサート」や、ホールまで出かけることのできない子どもに対する小学校アウトリーチ公演「舞台芸術アウトリーチ」、小さな子どもを持つ親へのコンサート「0才からの本格クラシック」、それらを融合した音楽イベント「まるごと一日音楽の日」などを通じ、多くの人々に鑑賞する楽しさを感じてもらいました。

アウトリーチ公演は多治見市の全小学校（13校）で行うとともに、昨年度好評だった狂言アウトリーチを2校に増やしました。

段差のないところでおこなう「ふらっとコンサート」を年8回実施しましたが、小さな赤ちゃん連れの来場者が8回合計で46人と、平成29年度と比較して15%の伸びとなりました。（資料6）

2. 「わが町」を愛する市民を増やす

「みんなで作る市民劇」では、市民から多治見に関する思い出エピソードを募集し、そのエピソードをもとに市民が戯曲を作成、そして市民がそれを演ずるという、一連の企画を実施しました。本公演には200人が来場。エピソード投稿者はもちろんのこと、「多治見を愛する気持ちが伝わった」「いい企画なので第2弾も楽しみにしている」「多治見の良いところが再発見できた」など観客からも好評をいただきました。一連の事業に関わった市民は総勢150人、当初の目標値を大幅に上回ったとともに、小学校の協力によりエピソードを子どもたち募集してもらえたことは特筆すべき事項です。（資料7）

3. 「観光都市・多治見」を支える舞台芸術の実施

「スイーツタイムミュージック」では、地元の洋菓子店との連携により、休憩時間に菓子と飲料のサービスを実施しました。地元カフェの手作り菓子など、多治見ならではの品を選定しています。お客様からは「前回いただいたお菓子が美味しかったからその店に行ってみた」と言われ、地元菓子業界の活性化に微力ながら寄与できました。

「たじみワンコイン寄席」は、開催2年を経て、多治見市文化会館を象徴する事業の一つに成長しました。平成29年度は1,004人の参加者でしたが、平成30年度は1,415人と大幅アップしました。多治見市以外の来場者は各回平均30%。平日昼間の開催のため、観光もかねて昼食を多治見で取るというお客様もいらっしゃいます。（資料8）

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

◆事業1「みんなで作る市民劇」

a) たじみの思い出エピソード募集 募集期間：平成30年5月1日～9月2日
b) 戯曲講座 平成30年9月2日～11月25日（合計5回）
c) 演劇ワークショップ 平成30年11月7日～平成31年2月24日（合計20回）
d) みんなで作る市民劇関連展示 展示期間：平成31年2月21日～2月24日
収支予算：収入145千円、支出1,231千円
収支決算：収入132千円、支出1,337千円

◆事業2「たじみワンコイン寄席」

平成30年5月9日（水）、7月11日（水）、9月12日（水）、11月14日（水）、
平成31年1月9日（水）、3月13日（水）（合計6回）
収支予算：収入450千円、支出1,106千円
収支決算：収入750千円、支出1,088千円

◆事業3「スイーツタイムミュージック」

平成30年4月16日、9月9日、10月4日、12月9日（合計4回）
収支予算：収入398千円、支出1,017千円
収支決算：収入530千円、支出964千円

◆事業4「まるごと一日音楽の日」

平成30年6月24日
収支予算：収入105千円、支出530千円
収支決算：収入33千円、支出459千円

◆事業5「子どものためオーケストラテーマパーク」

a) 合唱講座 平成30年6月30日～7月28日（合計6回）
b) コンサート・ワークショップ・舞台裏探検隊 平成30年7月28日
収支予算：収入1,828千円、支出2,461千円
収支決算：収入1,523千円、支出2,497千円

◆事業6「舞台芸術アウトリーチ」

平成30年10月24日、10月25日、10月26日、11月15日、12月7日、12月14日
平成31年1月15日、1月16日（合計8日／13回）
収支予算：収入0円、支出1,705千円
収支決算：収入0円、支出1,980千円

事業期間につきましては、すべて当初計画どおり実施できました。

また、事業費につきましては、事業全体で
収支予算：収入2,926千円、支出8,050千円
収支決算：収入2,968千円、支出8,326千円
となり、ほぼ予算どおりの執行となりました。
（資料9）

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

(1) ミッション

多治見市民から「優先的に維持されるべき施設」であり「年に数回使用する施設」（資料1）と考えられている当館の社会的ミッションは「社会権実現のために必要不可欠な場所」であり、高齢化・コミュニティ消滅の危機を迎えている多治見市の社会課題を解決するべき施設です。

今回、「みんなで作る市民劇」では、子どもから高齢者まで、多治見に関する思い出を集めて劇に仕立てました。これによって多くの人々が多治見の良さを再確認し、「次の劇もぜひ参加したい」という声をいただきました。（資料10）

また、「まるごと一日音楽の日」では一般公募の市民と市民オーケストラの総勢200人が半年間の練習を重ねることで仲間づくりの一翼も担い、演奏会は成功裏に終わりました。本企画で築き上げた仲間が集い、その後も各地の合唱祭に参加しているようです。（資料11）

(2) 事業内容の独創性、新規性

今回普及啓発事業として6事業を実施しましたが、それぞれについて多治見ならではの視点を取り入れ、実施しました。

◆事業1「みんなで作る市民劇」

多治見市出身の演出家・俳優の川村ミチル氏を企画全体のプロデューサーとして起用し、多治見をよく知っているからこそその視点で企画全体を組み立てました。出来上がった戯曲および演劇作品はすべて新作初演で、かかわった市民の数は150余人。市民劇はとかく「演ずる人」としての市民の関わりが多い中で、本企画はエピソードの投稿や戯曲の創作など、市民が多角的に関わりました。

◆事業2「たじみワンコイン寄席」

平日昼間の大ホールの利用率向上と、市民の高齢化に伴う余暇の増大を結び付けることがきっかけとして生まれた事業。落語を楽しむ高齢者が気軽に参加でき、そこから新たなコミュニティが発生して各地の落語会へ連れ立って出かける姿が見られるようになりました。

◆事業3「スイーツタイムミュージック」

多治見市内には菓子店が多数あり、これらの産業と文化を結び付ける事業を実施することを副次的な目的として、市内菓子店との協力により、コンサートの合間に菓子と飲料の提供を実施しました。菓子店の店主が直接お客様に提供すると「お店はどこにあるのか」「ほかにどんな商品があるのか」などの質問が飛び交い、後日店主たちからは「コンサートの後にお客様が来店された」との報告を受けています。

◆事業4「まるごと一日音楽の日」

多治見市および近郊の演奏家たちとの連携事業。オーケストラやクラシック音楽演奏家のみならず、和楽器やバンド楽器など、多方面の演奏者が関わり、小さなお子様から高齢者までが楽しめる事業を終日展開しました。当館から単に依頼をして演奏してもらうのではなく、互いに主体的に関わって事業を組み立て、終了後は反省会を行うというPDCAサイクルを市民とともに実行しました。

◆事業5「子どものためオーケストラテーマパーク」

「子どもが楽しみながら合唱できる場所が欲しい」という要望を複数の親から受け、本企画のために新たな合唱団を募集し、練習を重ねてオーケストラと演奏しました。学校という垣根を超えた枠組みは子どもたちにとって新たな楽しみの場を提供することとなり、講座が終了するころには「もっと続けよう」という機運が高まりました。演奏会当日は「楽器の部屋」コーナーを設け、それぞれの楽器を単に聞くだけでなく楽器の成り立ちや演奏方法なども伝授しました。

◆事業6「舞台芸術アウトリーチ」

アーティストの選定基準は「第一線で活躍している、著名な人」「子どもに対して本気で取り組める人」であり、演奏家には常に「寒い音楽室でも汗が出てくるくらい、本気の演奏を見せてください」とお願いしています。子どもには「大人が本気で取り組む姿」を見てもらい、そこから何かを感じてもらうことを主眼としています。芸術のすばらしさを伝えることも大事ですが、演奏家・実演家の生き様を見てもらいたいと考えています。そのため、学校側はこの事業を音楽科として捉えるところはもちろん、総合的な学習として捉える学校もあります。

(3) 大学との連携

平成30年4月に名古屋音楽大学と芸術振興と人材育成で連携を行う協定を締結しました。これに伴い、平成30年度はロビーコンサートや施設での出張コンサートなどを実施しました。次年度以降はさらに多くの形態での連携を予定しています。（資料12～15）

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

1. 事業アンケートの実施

平成30年度については、28鑑賞事業、9参加型事業（ワークショップ）についてアンケートを実施しました。1年間でのアンケート総数は3,169通、回収率は30.9%と、高い回収率を誇っています。

アンケートでは、イベントそのものについての問いはもちろんですが、施設について、事業について、交通手段など、幅広い内容を尋ねることで、施設の改善や事業への反映を試みています。

2. アーティストの紹介

「スイーツタイムミュージック」「たじみワンコイン寄席」などで取り上げるアーティストを、多治見市役所や地域の公民館等へ紹介し、次へのステップにつなげています。

平成30年度に「スイーツタイムミュージック」で取り上げたアーティストを次年度は市内の公民館で演奏することになっています。地域の公民館からは「質の高い演奏家を紹介してもらえてありがたい」という意見をいただいています。「たじみワンコイン寄席」で招聘した落語家は、この縁を生かし、多治見市や近郊で出演の機会が増えています。

3. 多角的な広報ツールを用いた情報の発信

広報誌、新聞折込チラシはもちろんですが、インターネットを活用した情報発信にも力を入れています。facebook、Instagram、twitterなどのSNSを活用して施設の日常やイベントの裏側などを紹介するほか、ポータルサイトにもイベントを登録し、まずは施設を知ってもらうように努力しています。

4. 設置者による評価

多治見市からは毎年「指定管理者評価」を受けており、すべての年度において「期待以上」の評価をいただいております。（資料16）

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

1. 職員体制とキャリアパス

正規職員 3名（うち館長 1名）

短時間職員 2名

契約職員 6名 合計11名、正規職員率27.3%、事業担当職員 3名

2. 劇場間ネットワークの構築

東海地区の劇場・音楽堂等との連携として、年2回の会議（20館・40人程度が参加）に参加して課題を共有するとともに、個々に連携事業をおこなっています。

平成30年度は「舞台芸術アウトリーチ」及び「スイーツタイムミュージック」で愛知県幸田町及び愛知県武豊町とアーティストの共同招聘をおこないました。

また、愛知県公立文化施設協議会や愛知県芸術劇場がおこなう学習会に参加しています。

3. 教育機関とのネットワーク構築

平成30年度より、名古屋音楽大学と連携協定を締結し、大学での会議に出席したり、演奏者の派遣を受けたりしています。

平成30年度は「ふらっとコンサート」に演奏者の派遣を受けるほか、市内の演奏会に大学から推薦された演奏者を派遣しました。

4. 財源確保の取り組み

指定管理料105,109千円

利用料金収入28,824千円

文化事業収入41,000千円 が主な財源です。（資料17）

安定した収入を確保するために、各種補助金を活用しています。平成30年度は劇場・音楽堂等機能強化推進事業のほか、（一財）地域創造、（一財）自治総合センターからも補助をいただきました。

5. 安定した顧客の確保

会館友の会として「たじともClub」を運営しています。

会員数は平成28年度 508人

平成29年度 610人

平成30年度 706人 と、増加傾向にあります。

会員数を確保することで、チケット収入を担保することができるのはもちろんのこと、会員はすなわち「サイレントサポーター」として会館の取り組みを支援しているという証でもあります。